

井の口まちづくり会通信

井の口まちづくり会 設立・平成20年3月23日
 発行・平成30年2月1日・第21号通信
 責任者・小林 孝夫(井の口まちづくり会会長)
 〒500-8018 岐阜市大仏町8 ☎058-264-2760
 事務局長・名和 利夫 ☎058-263-0097
 通信作成・馬場わかよ bwakayo@sf.commufa.jp

「井の口寄席」を2月18日(日)夜に開演

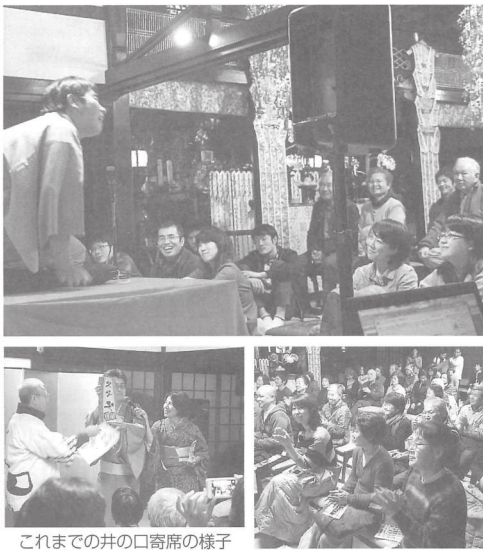
岐阜市「策伝大賞」決勝日とともに…
全国の学生落語家が井の口で熱演

笑いは百薬の長。楽しいまちづくり活動を進める一環として、初めての「井の口寄席」を平成21年2月に開催しました。演者は全日本学生落語選手権「策伝大賞」に出場した全国の落語研究会学生たちです。NPO法人ORGANとの共催によるもので、会員に限らず、お笑いを楽しみたい方などなたでも入場でき、第1回から婦人会有志による豚汁のふるまひがありました。この間8回に、毎回来ていたたくさんの方も多く、地域に定着した笑いのイベントになっています。

- 日時 2月18日(日) 開演18時・開場17時30分
- 会場 妙照寺 本堂(梶川町・駐車場はございません)
- きど銭 300円 (豚汁のふるまひ付き)

井の口寄席は策伝大賞と連動するため、決勝が終わり次第、出演者が会場に駆けつけます。なかには決勝の受賞者もいて、プロ顔負けの見事な落語を披露してくれます。

当寄席では、策伝大賞と違い学生がたつぷりと古典落語や新作落語を語り、会場いっぱいには笑いが満ちて、中入りに豚汁のふるまひもあり、身も心も温まります。きど銭はNPOへ寄付しています。すべての演目が終わりますと、井の口まちづくり会「大席」の選出を行います。井の口



これまでの井の口寄席の様子

平成30年度定期総会のご案内

- 日時 平成30年4月29日(祝・日) 午後1時30分 (受付は午後0時30分開始)
 - 場所 岐阜市歴史博物館 1階 講堂
- 昨年は多くの会員の皆さまに参加いただき、設立10周年記念事業を行うことができました。また、「井の口まちのお宝展」開催におきましては、地元の皆さまの多大なるご支援とご理解、ご協力をいただきました。
- つきましては、11年目となりますまちづくり会活動への一層のご支援をいただけますよう、また、会員相互の結束を深めるうえでも、定期総会へ出席いただければ幸いです。
- 皆さまの多数のご来場をお待ちしています。
- 同日開催事項 ・第5回「まちの文化的建造物」顕彰式
 - ・記念講演(午後3時～) 講師後日発表

総会受付にて30年度会費納入をお願いします

- *個人会員 (金華地区内) 500円(1口)
- (金華地区外) 1,000円(1口)
- *自治会・団体会員 1,000円(1口)

まちづくり会活動をいっしょにしませんか?

本年は役員改選年度に当たります。会員の参加にとどまらず、部会員としてまちづくり活動をいっしょにしませんか。地域貢献と仲間づくりをお考えの方や、まちの活性化に向けての若い方の発想力も求めています。ご近所の井の口役員、または、総会の受付にて声をかけ、ぜひお申し出ください。

平成29年度後期・各部会活動報告

まちなかアート部会

金華山ロープウェイ秘話

年間利用者数70万人余り、岐阜城を指して人々が利用している金華山ロープウェイは、昭和30年に開通した施設です。このロープウェイが完成するまでには多くの先人たちの苦労と努力があったことを、11月12日開催の講話会で改めて知ることができました。

金華山への旅客輸送が話題になったのは、大正元年(1912)。その後も何度か輸送のための会社が立ち上げられましたが、いずれも技術面、資金面、

まちなかアート部会

大仏様への年賀状展

7回目となる大仏様への年賀状展を1月5日～7日、画廊光芳堂にて開催しました。

展示した中には、静岡、京都、滋賀、和歌山県などの遠方や県内市町村からの郵送もあり、大仏様への感謝の言葉が綴られ、毎年送っていただけの常連も増え、31名の方が大仏殿の拝観券を来場して受け取られていきました。

大仏様を描いたものや干支の戌にちなんだ版画、写真、イラストなど、ユニークなもの手のかけたものが多く、見応えがありました。(伊藤逸夫)



7回目を迎えた年賀状展



大塚清史館長が易しく講話

さらには、戦時下などの問題に直面し、陽の目を見るには至りませんでした。

起点も梶川町、松ヶ枝町、上材木町なども検討された模様で、歴史博物館館長の大家清史様が当時の資料をもとに懇切丁寧に話していただき、50余名の参加者が聞き入りました。(堀 達夫)

しました。今回も岐阜小学校児童や明照幼稚園年長組の年賀状もあり、総数360枚を展示することができました。

まちなかお宝アート発見 伝統産業を受け継ぐ

赤ちゃん連れの家族が次々と初節句の雛人形を求めに訪れる「雛の蔵」は、創業100年近い安藤商店の展示販売会場。社長の幸延(こうすけ)氏で三代目という老舗です。

安藤商店の主力商品は提灯とぼんぼり。特にぼんぼりは、「岐阜のぼんぼりが一番」といわれたブランド品。品質ばかりでなく、30年ほど前からLEDコードレスの商品が開発され、良い人形には良いぼんぼりをと需要が高いのです。また、富山県では正月の天神ぼんぼりの受注も多く、伝統商品を作り続けています。

とはいえ、長く続く少子化と、何ごとも簡略化の時代ゆえ、人形とセットのこの業界は厳しい状況にあると、節句人形アドバイザーの資格を持つ奥さまの光子さんが言います。

この日も目の前で、2カ月の女兒を抱いた若い夫婦が光子さんのアドバイスと説明を聞き、お人形を決めていきました。生まれてきた子の健康やかな成長と幸せを願って、祖父母や親から贈られる雛人形なのです。

川原町にある「川原町屋」は安藤商店の直営店。週末にはピアノ演奏もある蔵造りの人気カフェです。息子さん二人がこれからも、伝統産業を引き継いでいかれます。(馬場わかよ)



「雛の蔵」は五月人形・雛人形の販売期間中は無休

井の口まちづくり会設立10周年記念事業〔平成29年11月4日・5日開催〕特集

「井の口まちのお宝展」ありがとうございました

井の口まちづくり会設立10周年の記念事業として、昨年11月4日(土)・5日(日)の2日間、井の口地区に4つの常設会場(井の口の今昔展:般若寺、古地図と懐かしのものたち展:正法寺、わたしのお宝展:河村邸・山本家事務所)を開設。にぎわい特別会場では、お抹茶(正法寺)、ぜんざい(ふくろう絵工房)、手描き紙芝居上演・占いコーナー(河村邸)、三味線演奏(カフェ茶人)などの多彩な催しを展開しました。

このほかにも、エリア内の店舗や企業、施設、個人のお宅の玄関先に入って、お宝を拝見させていただけるマップを作成し、配付しました。妙照寺では、寺mamaマーケットが協賛開催をしていただけ、物産や飲食ショップ、体験コーナーに大勢の人たちが詰めかけました。また、特別企画「井の口探索ツアー」では、まちなか案内人さんの協力により、たくさんの応募者を得てまち歩きを楽しんでいただきました。



盆石の実演も行われた会場(河村邸)



建築家による町家の解説(河村邸)



わたしのお宝展(山本家事務所)



お抹茶席(正法寺)



ぜんざい(ふくろう絵工房)

参加者・協力者の声

●山本正亨(山本家事務所)
葉草染めを長くしています。10年ほど前に、竹文化振興協会の活動で菊をいただき、その皮からピンク色の染色ができました。以来、春は菊染めで、主人の事務所が2年前に移転したのを機に、この場所を染色グループの方たちに2回開放して、皆さんが思い思いに藤細工や伊勢型紙、手芸作品などを制作しています。また、この場所で陶芸や手芸の作品展などができたらと考えていて、仲間づくりをしています。

●山崎由紀子(カフェ茶人)
4日は着替える時間がないかも、朝から着物を仕事をして



4日に行われた三味線演奏(茶人)

おりました。三味線演奏に20名ほどが集まりました。3時から1時間、皆さんと楽しく歌っていました。「知っている曲ばかりだった」「思いっきり歌ったので楽しかった」などと言っていました。次の日にはお茶を飲みに行きたい方もあり、皆さんに楽しんでいただけてよかったです。

●後藤公志(まちなか案内人)
ツアー参加者たちを歩きまわるとき、各場所の説明やお話を聞いたのですが、このようにまちのいろいろな施設について見る機会はありません。また、貴重なものを見られ、皆さんも満足され、私も感動しました。PRの仕方が難しいとは思いますが、企画自体は素晴らしい内容で、もっと多くの人に参加していただけたらと少しもったいない思いです。井の口のまちは、役員さんや住民の方たちがまちを大切にしている、強く感じました。

●山田 准・孝子(岩田西)
落語の会の依頼で創った手描き紙芝居敷点を、表紙読み私がめぐる担当で上演しました。

●福井正和・久子(一宮市)
妻と山仲間4人で探検ツアーに参加しました。歴史が好きで山登りもするのですが、岐阜県をよく来ています。ふくろう絵工房さんでチラシを見て午前・午後の2コースに応募しました。今まではまち並みの外観だけを見ていたが、今回は中身が見られ、いろいろなお話が聞けました。また、歴史を知ることができ、とても多面的な見方ができる気がします。



紙芝居を夫妻で上演(河村邸)

マップを手に空き時間にまちをまわりました。まち並みが整備され、歴史と文化に恵まれた観光拠点であり、加えて、隠れた施設や人材の多さにも驚かされました。そして何よりも、まちづくりを一生懸命やる人たちがいるから、井の口がいてくれるわけで、井の口がしたいような活動が、全市民的に広がる面白さを感じました。

●寺mamaマーケット(妙照寺)
今回で縁をいただき、妙照寺の堀桂子さんと二人三脚で、楽しく準備を進めさせていただきました。当日も、子どもの手を借りるほどのスタッフ不足で、井の口のお宝展までまわれないことがとても心残りです。しかし、ご来場者さま、出店者さまともに、とても楽しんでいただけた2日間となり、次回開催が下記に決定いたしました。皆さまのお越しを、お待ちしております。



「第3回寺mamaマーケット」
■平成30年6月3日(日)
■妙照寺にて(雨天決行)

10周年記念事業の御礼

井の口まちづくり会会長 小林孝夫

4つの「お宝展」の常設会場へ2日間で800名を超える来場をいただきました。また、協賛事業として寺mamaマーケットなどにより井の口エリアはさらに多くの賑わいを見ることができました。ここに多大なご理解とご協力をいただいた住民皆さま、スタッフの皆さまに感謝申し上げます。

特に有難かったのは、ツアーに応募された人に対してエリアの歴史・文化を守る店舗・事業が快く対応していただいたことです。ここにも歴史をもつ井の口住民の人情を感じ、このお人柄こそがまさに「井の口のお宝」であると思に至りました。本当にありがとうございました。



懐かしの道具類や古地図を展示(正法寺)

まちなか案内人さん
と歩くツアーの参加者

左: 小さい家にて
丸市木村商店ではスクリーン印刷の体験



古い写真をじっくり見入る来場者(般若寺)

まちなか案内人と行く「井の口探索ツアー」

10周年記念事業幹事長 岩佐純一

10周年記念事業に際し、地域の皆さまには多岐にわたるご支援とご協力を賜り心よりお礼申し上げます。お陰さまで、エリアの内外から参加いただき盛況となりました。

参加された方からは井の口の魅力あるまち並みや文化に触れ、素晴らしい体験ができた、普段は入れない場所やお宝、懐かしの品々、写真や古地図等が見られ、世代を超えて楽しめたなどの感想がいただけ、私自身もまちの魅力を再認識しました。

井の口まちづくり会は地域に関心を持っていただけるよう、まちの魅力を発信、継承して参りますので、今後とも末永くご支援ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

「あなたの頼みやで、ええよ貸したげるわ」と言っていただけ、いつもやさしく接していただきました河村義人様が、12月29日に交通事故により突然、亡くなられました。言葉にできないほどの驚きと哀しみに襲われています。ご冥福をお祈りいたします。



「第3回寺mamaマーケット」

事務局長 名和 利夫

まちのお宝展の古地図は、歴史の本に載っているものから探してきました。提供された古地図はデジタル化されています。これをA1サイズの大さに印刷することは容易でした。そこには、本の中の小さな地図では分からない、江戸の昔の井の口を見ることができ、大いに想像力、好奇心を刺激し感動ものでした。

展示した古写真は、元は一枚の絵はがきです。この絵はがきをデジタル化し、A2サイズの大さに拡大し印刷しました。絵はがきは、拡大しても十分に見ごたえのあるもので、細部まで見ることができ、今では見ることのない、明治、大正の井の口の賑わいを伝える建物や人々の風景が記録されていきました。

広報部会長 馬場わかよ

今回の記念事業に限らず、これまで井の口でさまざまなイベントをしてきて、その都度、住民のお人柄や人情に触れ、井の口のお宝はこの方たちであり、まちづくりは人との出逢いにあると感じております。いつも助けていただき、ありがとうございます。

「今年も10周年です。また今年も、お屋敷を貸していただけませんか」とお願いしたのは総会の受付時でした。

「井の口探索ツアー」

まちなか案内人と行く「井の口探索ツアー」

探索ツアーにたくさんの方々に参加をいただき、また、訪れた施設・店舗では非常にわかりやすい説明をしていただきました。

名和昆虫館では白蟻や標本の話、普段見学できないエアライフル射撃場での話、円空美術館、光芳堂、なうふ現代などで見学や解説、体験などもあって、どのコースも皆さんに満足していただけたようです。

尚、ツアーを盛り上げサポートしていただいた、まちなか案内人の方々に感謝いたします。(後藤勝利)

事務局だより